

避難行動要支援者名簿活用モデル訓練報告

○避難行動要支援者名簿とは

災害時に備え、平常時から、避難行動要支援者名簿を区が作成し、

警察署、消防署、消防団、民生委員の他、

希望する町会に提供

※町会への名簿提供は、区と協定締結した町会

現在、協定締結数102町会。

名簿対象者数 約21,000名 名簿登載者数 約4500名(登載率約20%)

登載者は、名簿への登載を希望し、自らの情報を外部に提供することに同意をした方。

訓練の目的①

大地震などの災害発生時に、1人暮らしの高齢者や障害者など自分の力で避難することが困難な方に対して、安否確認や避難誘導などの支援を行う必要

町会訓練を行う目的 発災時の具体的な行動の検証

町会内での安否確認担当の決定

町会の支援体制

町会長等の町会名簿管理者だけで支援を行うのは不可能

他町会役員も見守り担当として支援を行う必要

避難支援担当は、二次被害等を避けるため、原則2人1組で支援を実施

訓練シナリオ・フローチャート

地震シナリオ③ 自宅訪問後、避難所へ誘導

訓練想定:午前8時30分 台東区震度6強の地震が発生

現在時刻:午前10時30分(発災から120分後)

役割	セリフ	留意事項
遠藤防災部長:	それでは、これから電話で連絡が取れず、安否確認がとれなかった方の自宅に訪問していただきます。2人1組になって、途中や要支援者宅で、余震などによる二次被害に巻き込まれないように十分注意してください。経路の確認やヘルメットの着用をお願いします。	緊急時対応のため、訪問時には2人1組が原則です。
	緊急事態の場合には、つながりやすいメールも活用してください。	町会でヘルメットの確保を検討してください。
大川さん	それでは、石川さんと一緒に要支援者加藤さん宅に訪問します。	平常時から支援チームをつくっておくと
遠藤防災部長:	よろしくお願いします。	

【加藤さん宅への訪問途中での危険個所の発見】

石川さん	タイルから砂が噴き出し、かなりデコボコですね。不思議ですね	液状化が起こりやすい地域は公表しています
大川さん	これは液状化現象が起きている可能性があります。	
	遠藤防災部長経由で区に連絡したほうがよいでしょう。	警察・区への情報提供(道路管理上)
	【加藤さん宅に到着】建物の外観を確認(壁のひび割れ等)	3階建てマンションの2階に居住

【加藤さん宅に到着、ケガもなく、玄関ドアを開錠】

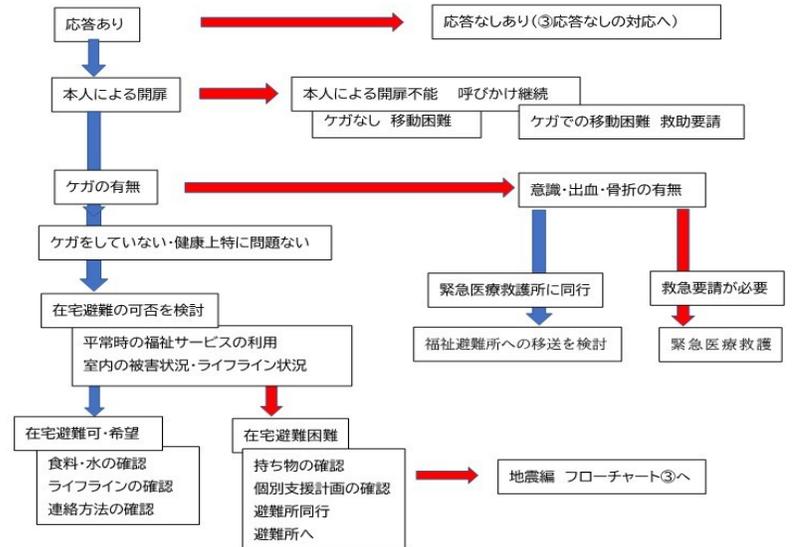
大川さん	(ドアをノック) 加藤さん 町会の大川です。安否確認に来ました。	
加藤さん	(遠くから声が聞こえるが、何を言っているのかよくわからない)	
大川さん	加藤さん 大丈夫ですか?(新聞入れを覗くとどうにか声が聞こえた)	最近新聞入れの玄関扉が少なくなりました

地震編 フローチャート② 避難方法 在宅/避難所への検討

① 支援者宅到着

倒壊等がないようか、家屋、周囲の安全を確認する。危険な場合は安全なところから声掛けとする

② 玄関ドアからの呼びかけ(施錠中を設定)



③ 応答なしの対応



駒形町会での名簿活用訓練の様子①

駒形町会は、町会会館を要支援者対策本部とし、訓練を実施



駒形町会での名簿活用訓練の様子②

バインダーの事前準備
バインダー内に町会地図や筆記用具等を入れておく

避難行動要支援者名簿との突合
名簿管理している町会長から提示された名簿と地図を照合し、訪問先を確認



駒形町会での名簿活用訓練の様子③

情報伝達手段:町会で購入した簡易無線を使用 (地域の底力発展事業を活用)
町会の面積もよるが、災害時には携帯電話が使用しにくくなることもあり、無線
における情報伝達の有効性を確認



金杉仲通町会での名簿活用訓練の様子①

「柏葉中学校」避難所運営委員会による
避難所開設訓練(6町会)と同時開催

発災時を想定して、より実践的な訓練を実施

町会の男性の多くは、「避難所開設」に従事し、
役割分担を図った。

避難所内に町会の要支援者対策本部を設置



金杉仲通町会での名簿活用訓練の様子②

室内でダンスや冷蔵庫が倒れ、要支援者が玄関に向かうことを想定

①ポストから室内の状況を確認 中から声を聞こえる

②隣人宅に入室許可を得てベランダの仕切り板を壊して入り、救出にあたることを検討



金杉仲通町会での名簿活用訓練の様子③

避難所への同行

- ① 常服薬等のほかに、個別支援計画、可能な範囲で備蓄品も持参
 - ② 受付で「避難所運営委員会」に要支援者であることを引き継ぐ
- ※個別支援計画の有無は「避難行動要支援者名簿」に記載



西三筋町会での名簿活用訓練の様子①

西三筋町会は、町会会館を要支援者対策本部として訓練を実施



西三筋町会での名簿活用訓練の様子②

電話で安否確認がとれず自宅に訪問する想定で訓練を実施。
訪問途中で危険箇所があったため、消防や警察に情報提供し、電話通信が可能
であるため、要支援者対策本部に情報共有を行いました。



西三筋町会での名簿活用訓練の様子③

要支援者の安否確認

在宅避難の希望を確認

在宅避難をする上で必要な物資等の確認を行うと共に、区からの情報を受け取ることができる防災アプリを入れておくことも必要だとお伝えし、対応に努めました。



モデル訓練でわかったこと①

1 事前準備の必要性

○町会内の区分け

○対象者の優先順位

○マップの作成

○連絡手段の確保

モデル訓練でわかったこと②

2 訓練実施

- ①支援の優先順位 安否確認をした上で支援する順番を決める
- ②訪問の記録・伝達 自宅訪問をした際に本人不在でも安否確認をしたことを伝える必要がある。
 - ※ 安否確認をドアノブにかける方法は防犯の観点から課題有
- ③応答がない場合の対応 安否確認として町会の役割はどこまでか
- ④ききとり用紙をあらかじめ準備しておく
- ⑤ 避難所運営との両立